

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2026 年 7 月 3 日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	商学部商学科
留学(渡航)した時の学年	3 年生
帰国年月日	2026 年 7 月 2 日
明治大学卒業予定年月	2027 年 3 月
留学先大学について	
留学先国	スペイン
留学先大学	バレンシア大学(日本語名) Universitat de València(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	スペイン語・英語 / 英語
留学期間	2025 年 9 月～2026 年 6 月
留学先大学で在籍した学年	4 年生
留学先の所属学部等	☒ 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 経済学部 現地言語での名称: Facultat d'Economia ☐ 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している ☐ その他:
形態	☐ 国立 ☒ 公立 ☐ 私立 ☐ その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 9 月上旬～1 月下旬 2 学期: 1 月下旬～6 月上旬 3 学期: 4 学期:
学生数	55,000 人
創立年	1499 年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (ユーロ) (1 現地通貨 = 185 円)	B 日本円	備考
授業料	192	0 円	スペイン語の語学学校代。 明治大学学費は含めていない。
宿舍費	4,800	0 円	水道光熱費込みで 480€/月。
食費	1,750	0 円	150～200€/月（外食は除く）。
図書費	0	0 円	特になし。
学用品費	20	0 円	ノート・ペンなど。
携帯・インターネット費	110	0 円	10€/月(国内 50G・国外 15G)
現地交通費	90	0 円	SUMA10(5.4€/10 回) Valenbici(29.21€/年) (☒ 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	15	0 円	旅行先で本を 1 冊購入。
旅費(留学中)	3,500	0 円	ヘルシンキ/バルセロナ/マドリッド/テネリ フェ/メノルカ/ウィーン/ハルシュタット/ナ ポリ/アマルフィ/マルタ/パリ/ニース/ミラ ノ/プラハ/ローマ/バレンシア近郊
被服費	200	0 円	運動着や普段着を購入。
医療費	0	0 円	持参の薬で乗り切った。
保険費	475	95,260 円	形態: ASISA / 明大サポート やむを得ず両方に加入する必要があっ た。
渡航旅費	0	235,000 円	以下詳細。
ビザ申請費	0	0 円	2025 年時点では無料。
雑費	100	0 円	家具や日用品など。
その他	1,500	0 円	交際費。
その他	248	円	ジム代。
合計 ※現地通貨 および 円	13,000 (=2,405,000 円)	330,260 円	
総計(A+B) ※円		2,735,260 円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

渡航関連

渡航経路

往路 出発地：羽田 目的地：バレンシア 経由地：ヘルシンキ/ミュンヘン

復路 出発地：バレンシア 目的地：成田 経由地：マラガ/ドーハ

渡航費用

① 往復チケットを購入した場合

航空会社：

料金：

② 片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社：JAL/Lufthansa 料金：¥80,000

復路 航空会社：Qatar Airways 料金：¥150,000 ∴合計：¥230,000

航空券購入方法

☐ 旅行代理店(店名：)

☒ インターネット(サイト名：Skyscanner)

☐ その他()

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例：アパート、大学の宿舎等)

☐ 学生寮(寮の名前：) ☒ アパート ☐ ホームステイ

2) 部屋の形態

☒ 個室 ☐ 相部屋(同居人数)

3) 共有部分

☒ バス ☒ トイレ ☒ キッチン(☒ 自炊可 ☐ 自炊不可)

4) 住居を探した方法：

HousingAnywhere

5) 感想：(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

ルームメイトにも恵まれ、非常に快適な滞在先であった。私は Mestalla Stadium の近くにあるアパートメントの 14 階で、6 人でシェアハウスをしていたのだが、大学までは徒歩約 15 分、市街地までは自転車では約 15 分、ビーチまでも自転車では約 15 分、スーパーマーケットまでは徒歩 3 分、ジムまでも徒歩 5 分と、非常に好立地であった。

バレンシア全体として治安はかなり良いが、ビーチ沿いの一部エリアはやや雑多な雰囲気もあるため、滞在先を選ぶ際には少し注意が必要である。一方で、私が住んでいた Ciutat Universitaria という地域は非常に治安が良く、いわゆる「ヨーロッパらしい街並み」という雰囲気は強くないものの、落ち着いていて非常に過ごしやすい環境であった。

市街地では家賃が月 600€ 程度、ビーチ沿いでは月 550€ 程度であることも踏まえると、費用を抑えながらも留学生活を十分に楽しみたい人には、私が住んでいた Ciutat Universitaria や、Benimaclet の南側エリア を強くおすすめする。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

☐ なし

☒ あり (治療を受けた場所:)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

☒ なし

☐ あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

危険情報については、主に大学からの案内、また実際に現地に住んでいる学生やルームメイトからの情報を参考にしていた。パレンシアは他の都市と比べても治安が非常に良く、日常生活の中で特別な不安を感じる場面はほとんどなかったため、過度な防犯対策は必要なかった。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地で利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使えない時はカフェに行った。)

特に問題なし。

5) 現地で資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

留学中の生活費については、三菱 UFJ 銀行の口座に両親から仕送りを振り込んでもらい、その資金を毎月、日本で開設した Revolut の口座に送金して使用していた。渡航当初は Wise を利用していたが、周囲の友人に Revolut を利用している人が多かったため、途中から Revolut に切り替えた。

これから Revolut を利用しようと考えている人には、Revolut と連携して使いやすく、現地での送金や支払いの管理がしやすくなる「みんなの銀行」の口座も開設しておくことを強くおすすめする。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

常備薬。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
28 単位	☒ 未定 単位 ☐ 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
☒ 出発前 ☐ 出発後 ☐ 派遣先大学の事務室 ☒ オンライン ☐ メール ☐ その他() ☒ 履修の制限があった: 基本 5 授業まで(theory と practice があるため実質 10 授業/週)	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Business English III	ビジネス英語 III
科目設置学部・研究科	Faculty of Economics
履修期間	1st Semester
単位数	6 ECTS
本学での単位認定状況	未定単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	対面(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 120 分が 2 回
担当教授	Cano Lopez, Marina
授業内容	国際的なビジネス環境で必要となる英語力を高めるため、ビジネスメール、レポート、プレゼンテーション、会議、交渉、電話対応などを学習した。また、働き方、企業成長、販売、金融、購買、CSR、異文化コミュニケーションなどのビジネス関連トピックも扱った。
試験・課題等	・ 筆記テスト: 50% ・ 口頭テスト: 20% ・ 個人・グループ課題、プロジェクト: 20% ・ 出席・授業参加: 10%
感想を自由記入	Theory では主にビジネス英語の授業を受けていた。Practice では主にグループで模擬起業に取り組み、ビジネス英語というよりは起業セミナーに近い形で興味深かった。試験に関しては、期末テストは、中間テスト 2 回で十分な結果を残せなかった人のみが受験する形式だった。難易度としては正直そこまで難しくなかったが、個人的に 2 度目の中間テストは 40 度近い発熱の中で受験したため、体調管理の重要性を実感した。

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
International Marketing		国際マーケティング
科目設置学部・研究科	Faculty of Economics	
履修期間	1st Semester	
単位数	6 ECTS	
本学での単位認定状況	未定単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	対面(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 120 分が 2 回	
担当教授	Ruiz Molina, Maria Eugenia	
授業内容	企業が海外市場に進出する際に必要な市場分析、参入戦略、製品・価格・流通・プロモーション戦略について学習した。また、グループプロジェクトでは、実際の企業を対象に海外市場参入計画を作成した。	
試験・課題等	- 筆記試験:50% - 個人課題・個人分析課題:18% - グループプロジェクト最終レポート:22% - PowerPoint・口頭発表:10%	
感想を自由記入	Theory は出席確認がなく 1 限の授業だったためか、毎回参加者は少なかった。Practice は最初の何回かは個人課題で、その後はグループワークに切り替わった。期末試験に関しては、マーケティングの基礎的な知識があれば問題ないようなエッセイ形式の試験であった。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Foreign Trade		国際貿易
科目設置学部・研究科	Faculty of Economics	
履修期間	1st Semester	
単位数	6 ECTS	
本学での単位認定状況	未定単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	対面(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 120 分が 2 回	
担当教授	Salamanca Gonzales, Jimena Alejandra / Sanchis Llopis, Juan Alberto	
授業内容	輸出入手続き、関税、国際契約、インコタームズ、国際輸送、保険、決済方法、為替リスク、貿易金融など、外国貿易に必要な実務知識を学習した。ケーススタディや貿易書類を通じて、国際取引の流れを理解した。	
試験・課題等	- 筆記試験:60% - 実践課題・ケーススタディ・質問票:40%	
感想を自由記入	一度、校外学習として実際に港を訪問した。現場で働いている方の話を聞いたり、実際に船に乗ったりする機会があり、非常に興味深かった。試験はエッセイ 3 つという形式であり、そこまで難易度は高くなかったように感じる。ただ専門用語が多いため、その意味を理解しておくことが重要であると感じた。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)	
Geopolitics and Globalization		地政学とグローバリゼーション	
科目設置学部・研究科	Faculty of Economics		
履修期間	2nd Semester		
単位数	6 ECTS		
本学での単位認定状況	未定単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	対面(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1 週間に 120 分が 2 回		
担当教授	Gonzalez De Lara Mingo, Yadira Maria / Pons Brias, Maria Angeles		
授業内容	グローバリゼーションと地政学の関係について学び、国際貿易、資本移動、移民、経済成長、貧困、不平等、生活水準の収束・分岐などを扱った。特に、1830 年以降のグローバル化・脱グローバル化の歴史的変化と、技術・制度・経済政策・地政学が与える影響について学習した。		
試験・課題等	・ 筆記試験:60% ・ 授業内課題:5% ・ 授業外課題・クイズ・ワークショップ:10% ・ エッセイ形式の記述課題:15% ・ 口頭発表:10% ・ 授業参加によるボーナス:最大 5%		
感想を自由記入	Theory と Practice クラスがつながっているため、試験範囲は想像以上に広がった。しかし、直前に教授が勉強しておくべきことを教えてくれ、試験内容もほぼその通りに出題されたため、取り組みやすく、内容自体も興味深い授業であった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Applied Industrial Economics	応用産業経済学
科目設置学部・研究科	Faculty of Economics
履修期間	2nd Semester
単位数	6 ECTS
本学での単位認定状況	未定 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	対面(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 120 分が 2 回
担当教授	Crespo Cepas, Juan Salvador
授業内容	企業の内部組織や不完全競争市場における企業行動について学習した。具体的には、企業の境界、産業分析、市場構造、競争戦略、ゲーム理論、戦略的コミットメント、価格競争、参入・退出障壁、競争優位とイノベーションなどを扱った。
試験・課題等	・ 筆記試験:70% ・ 継続評価:30% ・ ケーススタディの発表・議論 ・ 授業参加・課題提出
感想を自由記入	講義内容は複雑で、理解に時間がかかることも多かった。Theory と Practice が連続することもあり、集中力が必要な授業であった。試験はMCQsとエッセイの構成であり、要点を押さえれば対応できる内容であった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Operations Management		オペレーションズ・マネジメント
科目設置学部・研究科	Faculty of Economics	
履修期間	2nd Semester	
単位数	6 ECTS	
本学での単位認定状況	未定単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	対面(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 120 分が 2 回	
担当教授	Germán Lacal-Gutiérrez	
授業内容	企業のオペレーション部門に関する基本的な知識を学び、プロジェクト管理、製品設計・開発、生産プロセス、工場レイアウト、施設立地、短期・長期計画、在庫管理、サプライチェーン・マネジメントなどを扱った。	
試験・課題等	・ 理論・実践試験:70% ・ 継続評価:30% ・ プレゼンテーション ・ 実習課題 ・ 2レッスンごとの継続評価課題	
感想を自由記入	自身が履修した授業の中で唯一、計算を用いる授業であった。複雑な計算ではないため、やり方さえわかれば特に問題はなかった。 試験に関しては、問題文自体を理解できない人が続出した印象であった。というのも、専門的な英語表現を含む問題文が多く、内容を正確に理解するために何度も読み直す必要があった。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Consumer Behaviour		消費者行動論
科目設置学部・研究科	Faculty of Economics	
履修期間	2nd Semester	
単位数	6 ECTS	
本学での単位認定状況	未定単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	対面(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 120 分が 2 回	
担当教授	Maja Šerić	
授業内容	消費者が商品やサービスをどのように選択・使用・評価するのかについて学習した。具体的には、消費者意思決定プロセス、社会集団、家族、社会階層、文化・サブカルチャー、パーソナリティ、ライフスタイル、動機づけ、知覚、学習、記憶、態度、組織購買行動などを扱った。	
試験・課題等	- 筆記試験: 60% - 個人課題: 20% - グループ課題・レポート: 20%	
感想を自由記入	個人的には最も興味深い授業であった。内容自体も、日常生活の例と結びつけて理解しやすく、グループワークの内容も興味深かった。試験に関しては MCQs のみで、なかなか比較的取り組みやすかった。	

卒業後の進路について

1) 進路 ※3 年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記 2 以降は記入不要)

☐就職 ☐進学 ☒未定 ☒その他:

2) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。
内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。
就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

留学中の就職活動については、11 月に 1 社のみ選考を受けたが、時差の関係で面接が深夜 3 時からとなり、学業や留学生活との両立の難しさを強く感じた。また、学業や現地での経験をおろそかにしてまで就職活動に取り組むことに疑問を感じたため、その時点で留学中の就職活動は一度中断することにした。

その一方で、留学生活を通して自身のキャリア観にも変化があった。実際に海外で生活してみて、さらに海外で挑戦してみたいと感じたことはもちろん、円安の影響により、日本円を基準に海外で生活することの難しさも実感した。その経験から、日本国内だけで就職先を考えるのではなく、海外で働く選択肢も本格的に視野に入れるようになった。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

IELTS や TOEFL のスコアは出願に必要な最低ラインを確保さえしていればいいと思う。
それ以上に娯楽から政治まで、世界で起きているさまざまなことに関心を持ち、自分なりの意見を持つておくことが重要であると思う。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

卒業後すぐに海外大学院へ進学するか、日本で実務経験を積んでから海外大学院へ進学するか、あるいは日本での実務経験を活かしそのまま海外で働くかで迷っている。国としてはアメリカかドイツを検討しているが、いずれにしても外国人として海外で働くためには、これまで学んできたビジネスという大枠だけではなく、より専門性の高い知識や実務的なスキルが必要になると感じている。そのため、簡単な道ではないと思うが、将来的には海外での進学や就職にも挑戦したいと考えている。

現時点では、帰国後できるだけ早くインターンシップを始め、実務経験を積みながら、自分の専門性やスキルを高めていきたいと考えている。

留学希望者へのアドバイスとしては、留学中に自分の価値観や将来の選択肢が大きく変わることもあるため、最初から進路を一つに決めすぎず、現地での経験を通して柔軟に考えることが大切だと思う。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1 月 ～ 3 月	
	4 月 ～ 7 月	IELTS 受験(6 月)
	8 月 ～ 9 月	ヨーロッパ横断(視察)
	10 月 ～ 12 月	出願/面接など
留学開始年	1 月 ～ 3 月	選考結果
	4 月 ～ 7 月	滞在先確保(5 月)/航空券購入(6 月)
	8 月 ～ 9 月	ビザ申請・獲得(8 月)/渡航(9 月)
	10 月 ～ 12 月	
留学/帰国年	1 月 ～ 3 月	1 学期末試験(1 月)
	4 月 ～ 7 月	2 学期末試験(6 月)/帰国
	8 月 ～ 9 月	
	10 月 ～ 12 月	

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生活全般等について、アドバイスを記入してください。

バレンシアを選んだ理由について、正直に言うと、当初から第一希望だったわけではない。私にとってバレンシア大学は第4希望の留学先であった。結果を見た際は「スペインは自分には合っていない」とまで感じていた。

補足として、留学先を選ぶ際には、大学のQSランキングなどの評価がある程度高いこと、そして都市として魅力があることを重視していた。せっかく交換留学をするのであれば、学術的な環境が整っており、かつ生活面でも充実した経験ができる場所を選びたいと考えていたためである。

しかし結論から言えば、バレンシアに滞在することができて、本当に良かったと感じている。バレンシアは、きれいな街並み、ビーチ、少し移動すれば自然もあり、学生にとって非常に過ごしやすい街であった。学生同士の交流の機会も多く、留学生活を楽しむために必要な要素がそろっていたと思う。

バルセロナやマドリードのような大都市と比べると観光地としての派手さは少ないかもしれないが、その分、生活しやすく、物価も比較的抑えられている。それでいて遊ぶ場所や行く場所も十分にあり、個人的には大都市すぎないバレンシアの規模感が非常に自分に合っていた。

また、バレンシアは留学生が多く、非常に国際的な環境であった。スペイン語圏であるためラテンアメリカ出身の学生も多く、地理的にアフリカ大陸に近いこともあり、モロッコをはじめとするアフリカ系の学生も多かった。さらに、北米やヨーロッパ各国から来ている学生も多く、多様な価値観に触れる機会が多かった。一方で、アジア人や日本人はかなり少なく、私は1年間を通して日本人の友人がほとんどいない環境で生活していた。

その環境は決して楽なものではなかったが、今振り返ると非常に良い経験だったと感じている。常にマイノリティの立場に置かれることで、自分の中の「当たり前」が必ずしも世界共通ではないことを強く実感した。日本では普通とされることが海外では通じなかったり、逆に日本では失礼だと感じるものが現地では当たり前だったりする場面も多くあった。その中で、文化の違いを必要以上に深刻に受け止めすぎず、「そういうものだ」と理解し、状況に合わせて順応する力が身についたと思う。

また、留学生活では自分から発信する姿勢が非常に重要だと感じた。自分から話しかけたり、会話に入ろうとしたりすれば、「今日遊びに行くけど来る？」と誘ってもらえることも多かった。日本ではあまり経験しないような、ほとんど知らない人たちの集まりに参加することも多く、最初は戸惑うこともあったが、そうした経験を通して人との距離の縮め方や、新しい環境に飛び込む力が鍛えられたと思う。もちろん性格や考え方は人それぞれだが、留学をより充実したものにするためには、ある程度自分から外に出て、人と関わろうとする姿勢が大切だと感じた。

一方で、就職活動のためだけに留学中に何か特別な実績を作ろうとするのは、正直かなり難しいとも感じた。授業自体も想像以上に忙しく、現地での友人関係や日々の経験を大切にしようとするれば、就職活動やインターンシップなどに多くの時間を割くことは簡単ではない。もちろん、事前にしっかり準備をすれば両立することも可能だと思うが、個人的には、留学中に無理に「ガクチカ」になるような活動を作る必要はないと感じた。

むしろ、留学を通して得られる一番大きなものは、人間的な成長だと思う。異なる文化や価値観の中で生活し、自分から人と関わり、時には孤独や違和感を感じながらも順応していく経験は、結果的に自分自身の考え方や行動力を大きく変えてくれる。もし留学の目的が就職活動のためだけであるなら、留学生活の本質的な価値を十分に感じることは難しいかもしれない。留学は履歴書に書くための経験というより、自分自身の価値観や生き方を広げるための経験として捉える方が、より意味のあるものになると思う。

総じて、この10か月間の留学経験は自身にとってかけがえのないものになった。

強いて留学のデメリットを挙げるとすれば、出会ったかけがえのない人々と離れ離れにならなければならないことだと思う。それでも、時差や距離を感じさせないほど大切だと思える人々と出会い、その人たちと一生心に残るような思い出を作ることができたことに、心から感謝している。

そして、今これを読んでいる人にも、私と同じように、あるいは私以上に素晴らしい経験をしてほしいと思う。思い切り楽しみ、多くの人と出会い、人間としても大きく成長できる留学生活になることを心から願っている。